

# つながる・ひろがる交流会～香流学区～

日時：令和元年9月26日(木)

午後2時～3時30分

場所：名東区役所 講堂

## テーマ 「防犯活動～侵入盗はゆるさない！！～」

### 1 概要

香流学区は人口11,622人（令和元年8月1日現在、区内で4番目に多い）だが、学区内の住宅侵入盗発生件数は平成18年頃～平成27年頃は十数件で推移しており、比較的多かった。そこで防犯4原則のうち「光」「地域の目」に着目し、複数の対策を講じてきた。

1つめの対策はソーラー式セーフティフラッシュ付蛍光反射看板の設置。学区内25箇所の人通りが多い所を中心に、太陽光で蓄電するライトの付いた看板を取り付け、24時間365日地域の目があることをアピールするようにした。

2つめの対策は駐車対策。泥棒が下見をしにくいよう、路上駐車車両が多かった道路で、駐車違反取り締まりを強化するとともに、抜け道として利用されないようにも工夫した。

3つめの対策は防犯パトロールの実施。幹線道路などの目立つ場所を歩くことで、地域の防犯意識が高いことをアピールした。また、パトロール中はあいさつや声掛けも行った。

4つめの対策は学区行事等での啓発事業の実施。本学区では住宅侵入盗対策専用のティッシュを1年あたり7,000個配布しており、香流納涼まつりなどのイベント等でも啓発イベントを実施した。平成28年6月には、学区で防犯大会を実施しており、また毎年9月には、イオン名古屋東店で警察署、香流学区、引山学区合同で啓発品を配布している。

これらの対策の甲斐もあり、学区内の住宅侵入盗発生件数は平成27年の20件をピークに年々減少し、平成30年には2件となった。

### 2 課題

#### ○ソーラー式セーフティフラッシュ付蛍光反射看板の維持管理

台風等でも飛ばされたりしないよう、しっかり固定する必要があるほか、パトライトの交換も必要。

#### ○ソーラー式セーフティフラッシュ付蛍光反射看板の設置場所検討

同じ場所に置いておくのではなく、幹線道路上で移動、住宅の路地に移動等を検討中。これにより「この地域は油断していない」「意識し続けている」ことをアピールできる。

### 3 意見交換の主なやりとり

#### <質疑応答>

○（学区防災委員）ソーラー式セーフティフラッシュは取り外しは簡単にできるのか。

→（香流学区連協会長）簡単に取り外せるが、ソーラー式セーフティフラッシュ自体の盗難防止のため、看板に穴をあけて、ネジを通して取り付けている。

- （学区自治会長）侵入盗の多い時間帯はあるのか？  
→（名東警察署生活安全課長）宵や明けの時間に多い。電気の点いている家と点いていない家がよく分かる。
- （学区連協会長）月1回パトロールされているとのことだが、人員確保で良い案があれば教えてほしい。  
→（香流学区連協会長）特別なない。町内会長は全員やろうということにしている。体育委員、消防団、PTAなどの長については任期中はやるが他の人に広げるのは相当大変。

### <ご意見>

- （学区連協会長）青パトはまわっているだけでも効果的。夜には啓発の音声が苦情にならない程度に流しながらまわっており、声掛けもしている。一番の悩みは高齢化による隊員不足。隊員募集の組回覧もしているが、刷新されていかない。
- （学区連協会長）4原則のポップステップ等、色々と勉強されたのだと思った。数字にも効果が現れている。このような活動は他の学区でも広げていきたい。侵入盗に限らず交通安全など、色々な活用ができると思う。本当に継続の力だと思う。名東区のような交通の便が良いところでは、泥棒も逃走しやすい。泥棒にとって「名東区は昼も夜も仕事ができない」という風にできると良い。
- （学区連協会長）自分の学区では月4回パトロールをしている。夏休みは各団体に動員をお願いしたが、通常のパトロール活動は固定メンバーで人が増えない。年々高齢化しており、若い人に入っていただく手立てが必要だが、会議をしても妙案が出ない。
- （コミュニティサポーター）担い手不足解消につながりそうな事例を紹介させていただきたい。青パトなどの人手集めが課題だったが、決まった時間にパトロールするのではなく、ペットの散歩やジョギングの際に、防犯の旗やバッジをつけるよう呼びかけ、住民にそれぞれの生活の中で地域活動に関わってもらうようにした。  
青パトを始める場合、人集めが大変だと思うが、パトカーに対して子どもに興味をもってもらい、親に呼びかけたりしていた。  
発表中にあった防犯4原則は、住民でも知らない人はいるのでは。先ほど例に挙げたように、ペットを飼っている方、子育て中の方、自営業の方など、今の地域の状況を知ってもらうことで、協力してもらう人が少しずつ増えないか。

## 4 まとめ

（香流学区連協会長）

本日発表したような活動は、これで終わりではない。続けることがとても難しい。このような様々な運動は、初めは盛んだが、だんだん尻すぼみになっていくので、毎年意識をして計画をしていくことが大事だと思う。そうした決意でこれからも頑張っていきたい。

（名東区長）

ソーラー式セーフティフラッシュやパトロール、青パトなどは、地域の連帯感を示せる。地道な活動が犯罪の減少につながる。地域でできることをやっていき、泥棒に「昼も夜も仕事のできないまち」と思わせることが大事。

担い手不足は、防犯に限らずどの分野でも問題となっている。コミュニティサポーターからお話いただいたやり方は、これからの時代で活かせる。1月の還暦式でも、地域活動への参加を声掛けいただく機会にさせていただくと良いと思う。